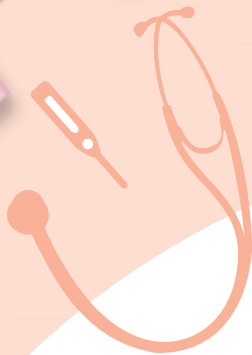


# BELLUNA

Interim Business Report **ベルーナ**

## 第38期 中間株主通信

(平成25年4月1日～平成25年9月30日)



# BELLUNA

既存事業の強化と新たな事業の成長促進で“通信販売総合商社”の熟成を目指します。



## 当第2四半期の概況

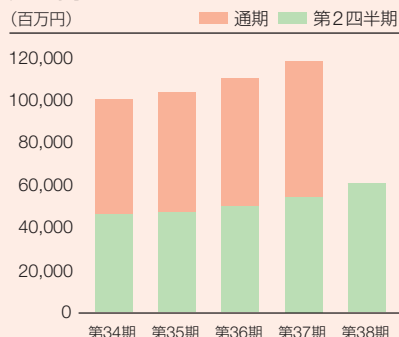
当期の連結ベースの売上高は、前年同期比11.4%増の604.3億円となりました。これは、総合通販事業や店舗販売事業が拡大したことに加え、プロパティ事業で不動産売却があったことなどによるものです。

利益面では、専門通販事業などでは減益となりまし

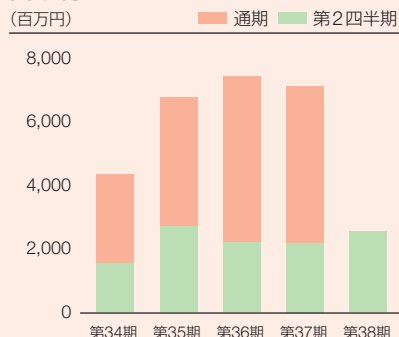
たが、不動産の売却益などもあり、営業利益は25.2億円(同16.2%増)となりました。それに伴い、経常利益は31.3億円(同23.5%増)となり、四半期純利益も19.6億円(同7.3%増)となりました。

財政状態については、商品やのれんが増加したことにより、総資産は前期末比96.7億円増加の1,247.5

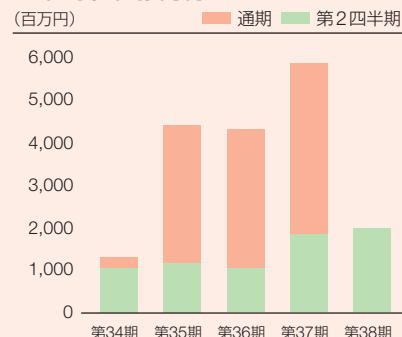
### 売上高



### 営業利益



### 四半期(当期)純利益



億円となりました。一方、負債は同79.5億円増加の564.2億円となりました。この結果、純資産は同17.2億円増の683.3億円となり、自己資本比率は54.8%となりました。

## 当社を取り巻く環境

当期の国内経済は、新政権の財政政策や日銀の金融緩和などにより円安・株高へ転じ、それに加え経済政策への期待感もあって、全体として景気回復に明るい兆しが表れております。一方で円安による輸入品価格の上昇や雇用者所得の低迷など、取り巻く経営環境は引き続き厳しい状況が続いております。

通信販売の市場規模は5兆円を突破し、平成24年度も前年度比6.3%の伸びとなりました。新規参入企業の増加により競争が激化している一方で、通販代行などのビジネスチャンスの拡大につながっており、今

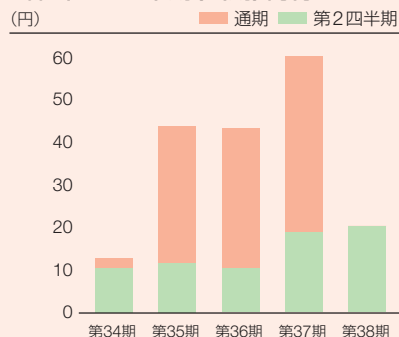
後も成長が加速する業界であると言えます。

## ポートフォリオ経営の強化

当社は、“通信販売総合商社”というビジネスモデルを熟成すべく、「①ポートフォリオ経営の強化」、「②新たな事業の成長促進」、「③通販インフラの整備」、「④株主還元の見直し」を基本方針として、平成28年3月期に売上高1,600億円、営業利益120億円を目指す第二次短期経営計画に取り組んでおります。

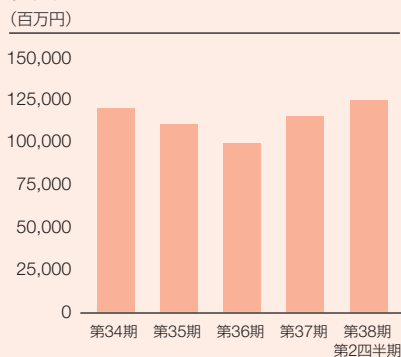
「①ポートフォリオ経営の強化」では、既存事業の強化に取り組んでいます。総合通販事業では、40代以上の女性をターゲットとするミセス向けの事業を強化しており、若年層向け事業は収益性の向上に注力しています。また、専門通販事業では、8月30日に看護師向けの通販事業を展開する(株)アンファミエの全株式を取得し、子会社化しました。ソリューション事業では、収

### 1株当たり四半期(当期)純利益

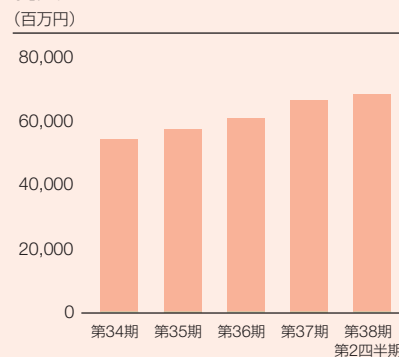


※平成25年10月1日付で普通株式1株につき2株の分割を行っており、当該株式分割に伴う影響を加味し、遡及修正を行った場合の数値を基に表記しています。

### 総資産



### 純資産



## 株主・投資家の皆様へ

益性の強化に注力しており、当第2四半期ではセグメント利益が前年同期比14.0%増となりました。

### 新たな事業の成長促進

「②新たな事業の成長促進」では、店舗販売事業と海外展開を強化しています。店舗販売事業では、平成23年よりミセス層向けのアパレル店舗を展開しており、平成25年9月時点で、関東圏に13店舗を展開しています。今後、更に出店を強化し、平成26年3月末までに20～24店舗にする計画です。また、和装関連商品の店舗を展開している(株)BANKANと(株)わものやも堅調に売上が伸張しており、事業拡大に貢献しています。

### 今後の見通し

第二次短期経営計画の初年度である平成26年3月期は、売上高1,300億円、営業利益95億円を見込んで

#### 第二次短期経営計画

##### 基本方針

##### — “通信販売総合商社” の熟成—

1. ポートフォリオ経営の強化
2. 新たな事業の成長促進
3. 通販インフラの整備
4. 株主還元の見直し

います。4つの基本方針に沿って施策を実行し、経営資源を最大限に活用して、安定性、成長性、継続性、収益性をより高め、“通信販売総合商社”というビジネスモデルの熟成を図ってまいります。

### 株主還元に対する考え方

当社は、企業価値の向上を通じて株主の皆様の日ごろのご支援に報いることを重要な方針として考えています。当期の配当については、前期の年間配当15円から10円増配し、年間配当25円を予定しています。なお、10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行ったため、期末配当は1株当たり6.25円となる予定です。

今後も、業績の状況および中期的な成長のための戦略的投資を勘案した上で、安定的な配当を実現してまいります。

当社は創業以来の方針である「顧客志向・顧客密着」を忠実に守り、お客様の衣食住遊を豊かにする商品・サービスを時代のニーズに合った形で提供し続け、多くのお客様に支持される企業を目指してまいります。

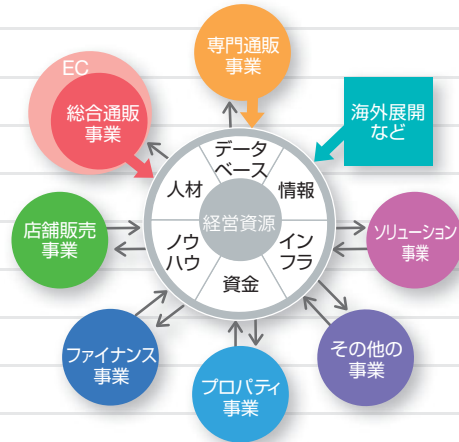
今後とも、当社および各事業へのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成25年12月

代表取締役社長 安野 清

## ✓ ビジネスモデル

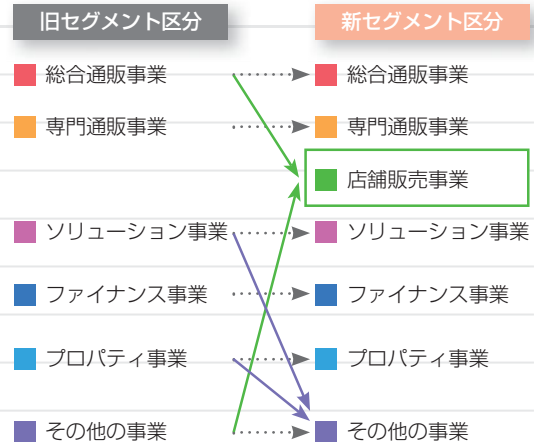
ベルーナは、総合通販事業で培った全国1,500万人以上の顧客データベースやコンタクトセンターおよび物流センターなどの通販インフラといった経営資源を保有しています。この強みを最大限に活かし、成長性と収益性が見込まれる専門通販、受託などの事業を展開してきました。今後も「顧客志向・顧客密着」を合言葉に、経営資源の有効活用によって様々なニーズに応えたサービスを展開する“通信販売総合商社”を熟成させてまいります。



## ✓ セグメント一部見直しのお知らせ

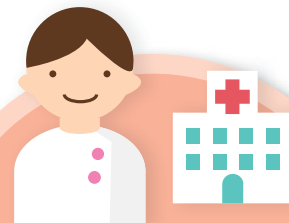
平成25年4月1日より、右記のようにセグメントの一部見直しを行いました。従来「総合通販事業」に含めていた衣料品の店舗販売事業、および「その他の事業」に含めていた和装関連商品等の店舗販売事業を分離し、新セグメント「店舗販売事業」として組み替え表示しています。

また、「ソリューション事業」に含めていた卸売事業、「プロパティ事業」に含めていたゴルフ場運営事業等を「その他の事業」に組み替えています。



## 新たなパートナーとともに、 看護師通販事業の収益力拡大を狙う

ベルーナは、平成25年8月30日、看護師向け用品の通販事業大手である株式会社アンファミエ（以下、「アンファミエ」という）を子会社化いたしました。これを機に、看護師通販事業の更なる拡大に取り組んでまいります。



看護師通販事業の  
収益力向上

Nursery

infirmière

商品調達力の向上

シェアの拡大

シナジー効果

販促コストの抑制

### 国内トップブランドのアンファミエ

看護師向け用品の通販事業でトップシェアをもつアンファミエは、20年以上にわたり培ってきた商品開発力、媒体表現力の高さがお客様の支持を受けています。白衣やナースシューズなどの必需品に加え、聴診器や便利グッズを1万点以上提供しています。

当社の看護師通販事業での株式取得は、平成19年3月の株式会社ナースリーに続き、今回のアンファミエが2社目となります。看護師通販市場は現在100～150億円規模\*とされています。双方のシナジー効果を発揮することで、更なる収益力向上を図ってまいります。

\*当社想定

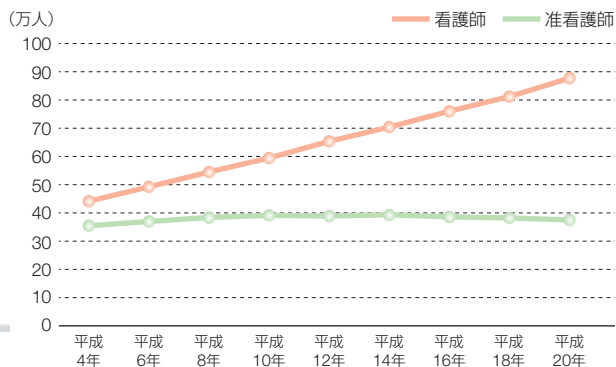
## 今後も更なる拡大が予測される看護師向け通販市場

厚生労働省『衛生行政報告例』によると、就業している看護師・准看護師数は平成10年の98万5,821人から平成20年には125万2,224人と、約26万人増加しております。今後も、高齢化に伴い、看護師の需要は高まると見られ、看護師数の増加に伴い、看護師向け通販市場の拡大が見込まれます。

看護師通販市場規模

100～150億円

### 看護師・准看護師数の推移



出所：厚生労働省『衛生行政報告例』



## アンファミエの“ここがポイント”

アンファミエの商品はこちらでご購入いただけます。

### 1 充実の品ぞろえ

業界No.1規模の取扱商品数を誇っています。

### 2 高性能商品の開発

現場に適した快適さとおしゃれ感を兼ね備えた商品を積極的に開発しています。

### 3 お求めやすい価格

自社デザイン、自社工場生産体制により、お求めやすい価格を実現しています。



強力制菌と帯電性を兼ね備えたツイル素材白衣



立ち仕事の疲れを軽減するオリジナルブランド「天使のナースシューズ」

カタログ  
(年4回発行)



WEBサイト



店舗



アンファミエ 心斎橋店



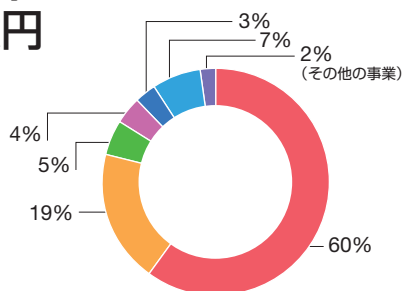
アンファミエ 銀座店

### 会社概要

社名 株式会社アンファミエ  
 売上高\* 58億1,400万円  
 営業利益\* 5億6,900万円  
 ※平成25年3月期

## 第2四半期(累計)連結業績の概況

連結売上高  
604 億円



### 総合通販事業

カタログやインターネットなどを媒体とするアパレル、雑貨、インテリア用品などの総合型の通信販売事業

### 専門通販事業

グルメ・化粧品・健康食品・看護師用品などの専門分野に特化した通信販売事業

### 店舗販売事業

アパレル品および和装関連商品等の店舗販売事業

### ソリューション事業

封入・同梱サービスや通販代行サービスなど、当社のデータベースやインフラを活用した受託事業

### ファイナンス事業

通信販売事業の顧客を主な対象としたB to Cファイナンス事業、および事業会社向けのB to Bファイナンス事業、韓国でのファイナンス事業

### プロパティ事業

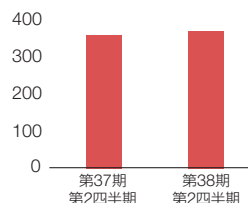
オフィスビルなどの賃貸、および再生・開発を手掛ける不動産事業

## 総合通販事業

家庭用品は低迷したものの、衣料品が順調だったことにより、売上高は365.3億円(前年同期比3.0%増)となりました。セグメント損益は、物流関連コストの上昇などにより1.6億円の損失(前年同期は0.8億円の損失)となりました。

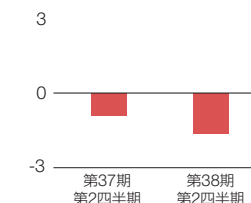
### 売上高

(億円)



### セグメント損益

(億円)

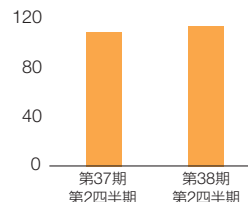


## 専門通販事業

化粧品と看護師向け事業が順調に売上を伸ばしたことにより、売上高は112.3億円(同4.5%増)となりました。一方、セグメント損益はグルメ事業が苦戦したことにより1.6億円の利益(同73.2%減)となりました。

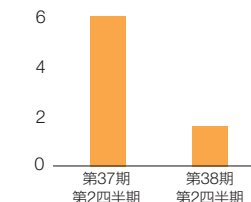
### 売上高

(億円)



### セグメント損益

(億円)



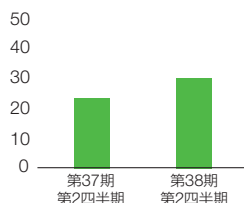


## 店舗販売事業

アパレル店舗事業に加えて、和装の店舗展開を行っている(株)BANKANと(株)わものやが順調に売上を伸ばしたことにより、売上高は30.0億円(同28.4%増)となりました。一方で、セグメント損益は出店コストもあり、1.1億円の利益(同32.1%減)となりました。

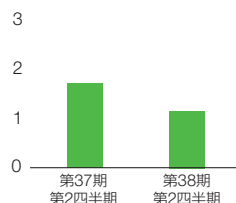
### 売上高

(億円)



### セグメント損益

(億円)

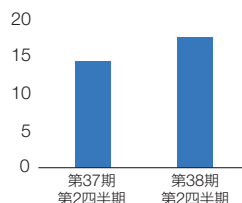


## ファイナンス事業

不動産担保金融事業で営業貸付金残高が縮小しましたが、国内消費者金融事業と韓国消費者金融事業で営業貸付金残高が伸びたことにより、売上高は17.4億円(同23.3%増)となりました。それに伴いセグメント損益は3.2億円の利益(同37.7%増)となりました。

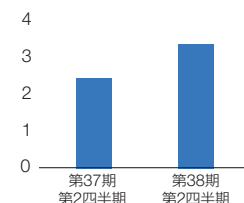
### 売上高

(億円)



### セグメント損益

(億円)

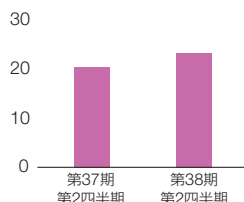


## ソリューション事業

封入・同送サービスと通信販売代行サービスが順調に推移したことにより、売上高は22.9億円(同15.5%増)、セグメント損益は9.3億円の利益(同14.0%増)となりました。

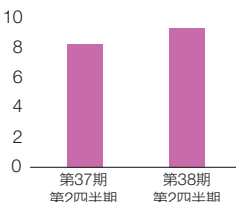
### 売上高

(億円)



### セグメント損益

(億円)

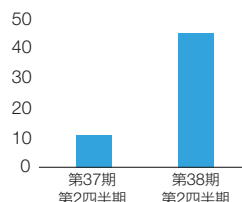


## プロパティ事業

販売用不動産の売却により、大幅な増収増益となり、売上高は44.6億円(同318.7%増)、セグメント損益は12.2億円の利益(同239.9%増)となりました。

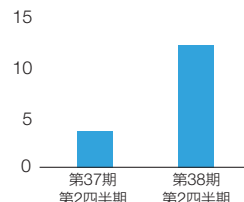
### 売上高

(億円)



### セグメント損益

(億円)



# 連結財務諸表(要旨)

## 第2四半期連結貸借対照表

(単位：百万円未満切捨)

	前第2四半期 平成24年9月現在	当第2四半期 平成25年9月現在	前期末 平成25年3月現在
<b>資産の部</b>			
流動資産	59,329	65,349	65,091
固定資産	43,315	59,407	49,987
有形固定資産	29,015	38,128	35,230
無形固定資産	4,396	7,689	3,896
投資その他の資産	9,904	13,589	10,860
<b>資産合計</b>	<b>102,645</b>	<b>124,757</b>	<b>115,079</b>
<b>負債の部</b>			
流動負債	30,259	38,237	38,723
固定負債	10,343	18,185	9,743
<b>負債合計</b>	<b>40,602</b>	<b>56,423</b>	<b>48,466</b>
<b>純資産の部</b>			
株主資本	63,194	68,432	66,835
資本金	10,607	10,607	10,607
資本剰余金	11,003	11,003	11,003
利益剰余金	51,223	56,497	54,900
自己株式	△9,639	△9,675	△9,675
その他の包括利益累計額	△1,151	△97	△222
少数株主持分	0	0	0
<b>純資産合計</b>	<b>62,042</b>	<b>68,334</b>	<b>66,612</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>102,645</b>	<b>124,757</b>	<b>115,079</b>

### 【資産合計】

資産合計は前期末に比べ9,678百万円増加しました。これは、商品やのれんが増加したことによるものです。

### 【負債合計】

負債合計は前期末に比べ7,956百万円増加しました。これは主に、長・短借入金が増加したことによるものです。

## 第2四半期連結損益計算書

(単位：百万円未満切捨)

	前第2四半期 自平成24年4月 至平成24年9月	当第2四半期 自平成25年4月 至平成25年9月	前期 自平成24年4月 至平成25年3月
<b>売上高</b>	<b>54,242</b>	<b>60,432</b>	<b>117,884</b>
<b>売上総利益</b>	<b>30,483</b>	<b>33,102</b>	<b>65,719</b>
販売費及び一般管理費	28,309	30,576	58,638
<b>営業利益</b>	<b>2,173</b>	<b>2,526</b>	<b>7,080</b>
営業外収益	567	1,008	2,056
営業外費用	205	403	226
<b>経常利益</b>	<b>2,535</b>	<b>3,131</b>	<b>8,910</b>
特別損失	58	43	24
<b>税金等調整前四半期(当期)純利益</b>	<b>2,477</b>	<b>3,087</b>	<b>8,974</b>
法人税、住民税及び事業税	544	812	3,077
法人税等調整額	104	312	26
<b>四半期(当期)純利益</b>	<b>1,828</b>	<b>1,962</b>	<b>5,870</b>

### 【売上高】

総合通販事業や専門通販事業を中心に順調に売上を伸ばしたほか、プロパティ事業において販売用不動産の売却があり、売上高は前年同期比11.4%の増収となりました。

### 【営業利益】

総合通販事業や専門通販事業が減益となりましたが、プロパティ事業での不動産売却益などもあって、前年同期比16.2%の増益となりました。

## 第2四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円未満切捨)

	前第2四半期 自平成24年4月 至平成24年9月	当第2四半期 自平成25年4月 至平成25年9月	前期 自平成24年4月 至平成25年3月
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,450	843	7,275
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,529	△12,304	△7,633
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,428	10,633	2,114
現金及び現金同等物に係る換算差額	△3	22	47
現金及び現金同等物の増減額	△510	△804	1,804
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	11,018	12,529	13,334

## 株式の状況 (平成25年9月30日現在)

発行可能株式総数.....130,000,000株  
 発行済株式の総数.....56,592,274株  
 株主数(除く自己名義).....6,229名

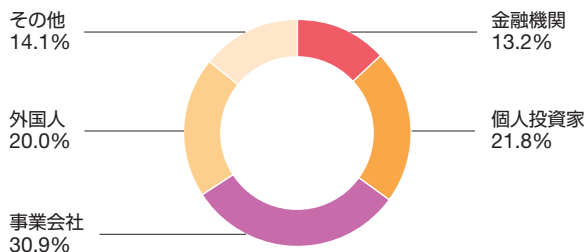
注)当社は、平成25年10月1日付で、普通株式1株につき2株の割合をもって分割するとともに、単元株式数を50株から100株に変更しております。これらにより、平成25年10月1日時点での発行可能株式総数は260,000,000株となり、発行済株式の総数は113,184,548株となっています。

### 大株主

大株主(上位10名)	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社フレンドステージ	16,755	29.6
安野 清	5,467	9.7
ビービーエイチ フォー フィデリティ ロープライズ ストック ファンド(プリンシパルオールセクターサブポートフォリオ) 常任代理人 株式会社三菱東京UFJ銀行	5,100	9.0
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,899	3.4
安野 公	1,662	2.9
株式会社三井住友銀行	1,123	2.0
野村信託銀行株式会社 (退職給付信託三菱東京UFJ銀行口)	984	1.7
ベルーナ共栄会	927	1.6
みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 みずほ銀行口 再信託受託者 資産管理サービス信託銀行株式会社	773	1.4
ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイロンドン エス エル オムニバス アカウト 常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部	651	1.2

注)信託銀行各々の持株数には、信託業務に係る株式が含まれております。

### 所有者別株式分布状況



## 会社の概要 (平成25年9月30日現在)

**商号** 株式会社ベルーナ  
**資本金** 106億7百万円  
**代表者** 安野 清(代表取締役社長)  
**創業** 昭和43年9月  
**設立** 昭和52年6月  
**従業員数** 1,270名(連結)  
**事業内容** カタログ等による通信販売を核に、受託、金融、卸売等の分野で展開する通販総合商社

**ホームページ** <http://www.belluna.co.jp/>


### 主な事業所

本社 (埼玉県上尾市)  
 本館 (埼玉県上尾市)  
 東京オフィス (東京都新宿区)  
 アネックスビル・第2アネックスビル (埼玉県上尾市)  
 北関東オーダーレセプションセンター (埼玉県鴻巣市)  
 川越オーダーレセプションセンター (埼玉県川越市)  
 領家丸山流通システムセンター (埼玉県上尾市)  
 宇都宮流通システムセンター (栃木県鹿沼市)  
 領家山下クリニックセンター (埼玉県上尾市)  
 領家山下流通システムセンター (埼玉県上尾市)

### 役員

代表取締役社長	安野 清	取締役	生川 雅一
取締役	安野雄一朗	取締役	下川 英士
取締役	野村 育孝	常勤監査役	河原塚隆史
取締役	穴戸 順子	監査役	中村 勲
取締役	島野 武夫	監査役	渡部 行光

# 株主メモ

- 事業年度 ..... 4月1日～翌年3月31日
- 配当金受領株主確定日 ..... 期末配当金 3月31日  
中間配当金 9月30日
- 定時株主総会 ..... 6月下旬
- 基準日(定時株主総会関係) ..... 3月31日
- 株主名簿管理人および  
特別口座の口座管理機関 ..... 三菱UFJ信託銀行株式会社  
〒100-8212  
東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
- 同連絡先 ..... 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
〒137-8081  
東京都江東区東砂七丁目10番11号  
 0120-232-711(フリーダイヤル)
- 公告の方法 ..... 電子公告により行う  
<http://www.belluna.co.jp/>  
(ただし、電子公告によることができない事故、その他やむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。)

## 【お知らせ】

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることになっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

株式会社 

〒362-8688 埼玉県上尾市宮本町4番2号  
TEL : 048-771-7753(代表)  
(ホームページ)<http://www.belluna.co.jp/>



本誌は、森林環境に配慮したFSC  
認証紙に植物油インキを使用し  
て印刷しています。